

科学技術連携施策群一覧

平成19年8月3日

連携施策群	連携施策群テーマ 【コーディネータ】	課 題 ⇒採択課題名	H17	H18	H19	H20	H21
ライフサイエンス P T	新興・再興感染症 【倉田 毅】	■ウイルス伝搬に関与する野鳥の飛来ルートの調査とそれらの野鳥における病原体調査及びデータベース構築 ⇒野鳥由来ウイルスの生態解明とゲノム解析 ■高度安全実験(BSL-4)施設を必要とする新興感染症対策に関する調査研究 ⇒BSL-4施設を必要とする新興感染症対策	52	117	117		
	生命科学の基礎・基盤(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【五條堀 孝】	■ライフサイエンス分野のデータベースの統合化に関する調査研究 ⇒生命科学データベース統合に関する調査研究	52	117	117		
	食料・生物生産研究(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【小川 奎】	■持続的植物生産のための植物・微生物相互作用の解析研究 ⇒植物・微生物間共生におけるゲノム相互作用			77	120	
	臨床研究・臨床への橋渡し研究(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【松澤 佑次】	■若手医師の臨床研究者としての育成プログラム開発 ⇒遺伝子・細胞治療に携わる臨床研究者育成					
情報通信 P T	ユビキタスネットワーク 【齊藤 忠夫】	■医療分野における電子タグ活用のための実証実験 ⇒医療分野における電子タグ活用実証実験 ■ユビキタスネットワークの斬新な活用研究・実証 ⇒電子タグを利用した測位と安全・安心の確保	51	156	117		
	次世代ロボット 【佐藤 知正】	■環境の情報構造化プラットフォームの基本モデルの研究開発 ⇒ロボットタウンの実証的研究 ■蓄積と再利用可能なロボット用ソフトウェア基盤の確立 ⇒分散コンポーネント型ロボットシミュレータ ■室内外を移動する人にサービスを提供するための環境情報構造化プロジェクト ⇒施設内外の人計測と環境情報構造化の研究 ■作業空間における物体操作のための環境情報構造化プロジェクト ⇒環境と作業構造のユニバーサルデザイン	25	65	65		
	情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発 【西尾章治郎】	■次世代情報環境におけるコンテンツ処理及び知識処理技術開発 ⇒センサ情報の社会利用のためのコンテンツ化	26	52	52		
ナノ/材料 P T	ナノバイオテクノロジー 【梶谷 文彦】	■分子イメージングによるナノドラッグ・デリバリー・システムの支援 ⇒超臨海ハイブリッドイメージングと治療法 ■ナノバイオセンサ ⇒独自のホール検出システムと磁性ナノビーズを用いた超高感度バイオセンサーの開発 ■分子イメージングによるナノ・ドラッグ・デリバリー・システムの支援 ⇒1遺伝子可視化法による遺伝子ベクター創製 ■ナノバイオセンサ ⇒生体内分子を可視化するナノセンサ分子開発 ■ナノバイオセンサ ⇒精密構造識別型の電気・光応答バイオセンサ	26	65	65		
	ナノテクノロジーの研究開発推進と社会受容に関する基盤開発 【中西 準子】	■ナノテクノロジーの研究開発推進の共通基盤となるデータベース指標の構築に向けた調査研究 ⇒社会受容に向けたナノ材料開発支援知識基盤	26	52	52		
ナノ/材料P T & エネルギーP T	水素利用/燃料電池 【本田 國昭】	■地域等における水素利用システムに関する概念検討 ⇒地域水素エネルギー利用システムの研究 ■需要家用水素計量システムに関する研究開発 ⇒需要家用水素ガス計量システムの研究開発	25	52	52		
環 境 P T	バイオマス利活用 【鈴木 基之】	■バイオマス利活用事業に関する持続可能性評価手法の開発 ⇒バイオマス利活用システムの設計・評価手法 ■バイオマス利活用事業に関する持続可能性評価手法の開発 ⇒地域完結型地熱システム構築と運営	52	117	117		
	総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発 【安井 至】	■化学物質情報プラットフォームの構造とその活用に関する調査研究 ⇒事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤		119	120		
ものづくり技術 P T							
社会基盤 P T	テロ対策のための研究開発－現場探知システムの実現－ 【森地 茂】	■放射性物質の探知技術に関する研究 ⇒手荷物中隠匿核物質探知システムの研究開発					
フロンティアP T							
地域社会科学技術 クラスターP T	地域科学技術クラスター 【清水 勇】	■地域の視点に立った効果的な地域科学技術クラスター形成のための調査研究 ⇒地域イノベーションの構造分析と施策効果	52	117	117		

：平成20年度当初にもとりまとめる
 予定の連携施策群〔3群〕

：平成17～19年度
 ：平成18～20年度
 ：平成19～21年度